

令和8年4月1日から 高齢者肺炎球菌ワクチンの「種類」と「自己負担額」が変わります

今までこの予防接種では、「ニューモバックス NP」というワクチンが使われていましたが、令和8年4月1日からは「プレベナー20」に変更されることが令和7年12月に行われた国際会議で決まりました。

接種を受ける時期によって、打てるワクチンの種類が変わりますので、下記の特徴を参考に接種をご検討ください。

■ 2つのワクチンの特徴

	ニューモバックス NP	新 プレベナー20
予防できる型	23種類	20種類
※肺炎球菌には90種類以上の型がありますが、感染を起こしやすい「重要な型」は限られており、これらのワクチンはその型に優先的に対応しているため、20種類程度でも十分な予防効果が期待できます。		
接種の方法	皮下注射	筋肉内注射
効果の持続	やや短期(約5年)	長持ち(理論上は一生)
接種費用 (町の助成を受ける場合)	4,000円(自己負担分)	令和8年3月31日(火)までは全額自費 <u>令和8年4月1日(水)以降は、町の助成あり</u> (ただし、ニューモバックスNPよりもワクチン代が高額なため、自己負担額は5,500円になる予定です)
接種期間 (町の助成を受ける場合)	65歳のお誕生日の前日から、 <u>令和8年3月31日(火)まで</u> ※このワクチンは <u>令和8年4月1日(水)以降には接種できません。</u>	<u>令和8年4月1日(水)以降、</u> 66歳のお誕生日の前日まで
接種回数 (町の助成を受ける場合)	生涯で1回限り (どちらか一方。初めての接種に限る)	